

国語科学習指導案

呉市立音戸小学校 村岡 はる菜

1 日 時 令和4年11月7日(月)第3校時

2 学 年 第1学年 1組 男子6名 女子7名 計13名

3 単元名 しらべたことをたしかめにいこう「いろいろな ふね」
(東京書籍 「あたらしいこくご 一下」)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」を受けて設定している。「文章の中で重要な語や文を考えて選び出す」力を育成するには、自分が知りたいことや調べたいことを明確にし、問いをもちながら読むことが必要となる。本単元で扱う「いろいろなふね」は身近な船から特殊な船までを四つ扱っており、一つの船ごとに「役目」「つくり」「できること」の三つの事柄についての説明がされている。そのため、それぞれの船についてどんな「やく目」「つくり」「できること」があるのか、といった問いをもちながら読み進めることで、知りたいことを文中から選び出していくことができると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、「さとうとしお」や「どうやってみをまもるのかな」の説明的な文章で事柄の順序に気をつけて読む力を身に付けてきた。また、海が近くにあるという本校の立地条件から、日常的に様々な船を見たり乗ったりした経験がある児童が多くいる。しかし、船のことは知っているものの、身近なものであるあまり、その名前や役割についてはあまり考えたことのない児童が多い。日々の読書活動では、絵本等の物語を好む児童が多く、図鑑を読む児童は少ない。単元テスト等における、問われている部分だけを抜き出して答える問題では、文を、該当の箇所だけでなく一文丸ごと書いている児童もいる。このことから、重要な語や文にあたる、問われている事柄に対する答えの部分だけを選び出す力を身に付けることが不十分であることが考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、まず児童に、船について知っているようで実は詳しく知らないから、調べてみなくてはいけないという課題意識をもたせる。船だけではなく、同じく身近だと思っている車など、船以外の乗り物の名前や「しごと」について本や図鑑で調べ、調べて分かったことが増えたら、調べたことが本当かどうか確かめるために乗り物を見に行く、という単元の流れを児童と共有することで、見通しをもって学習に臨めるようにする。文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力を身に付けさせるために、「のりものカード」に自分が調べたことや分かったことを本や図鑑から抜き出し、1人1人ののりもの図鑑を作るようにする。「のりものカード」を書く際には、いきなり「やく目」「つくり」「できること」を選び出させるのではなく、まずは「名前」から見つけ出す活動を取り入れることで、図鑑を読み慣れない児童も達成感を持って進められるようにしたい。「のりものカード」をできるだけたくさん作ることで、児童に、楽しみながら文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力を身に付けさせたい。

5 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕（２）ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C（１）ウ
- 言葉が持つよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしていや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことを整理してカードに書く活動を通した指導 【言語活動例 C（２）ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 （（２）ア）	・ 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 （C（１）ウ）	・ 粘り強く、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習課題に沿って、のりものカードに書こうとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導と手立て
思考・判断・表現	文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> バス しごと たくさんの人はしごと。 つくり たくさんの人がすわれるいすがある。 できること おきやくさんをのせて、いきたい ばしよまでつれていく。 </div>	調べたい乗り物について書かれたページを教師が児童と一緒に読み、まずは「しごと」が書かれている部分を見付けさせる。次に、「しごと」と同じように「つくり」や「できること」が説明されている部分を見付けさせた上で大事な言葉や文を見付けられるようにする。

7 指導と評価の計画（全 11 時間）

次	時	学習内容	評価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
一	1	○ 船に関する絵本を読み，学習課題をもつ。 (のりものはかせになろう)				
二	2	○ 「いろいろなふね」を読み，どんな船が出てくるかを見つける。	○			[知識・技能] <u>ノート</u> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	3	○ それぞれの船の「やく目（しごと）」を見付ける。				
	4	○ それぞれの船の「つくり」を，写真を手がかりに見付ける。				
	5	○ それぞれの船の「やく目」と				
	6	「つくり」をヒントに「できること」を本文中から見付ける。 (本時)				
	7	○ 知りたいのりもの本や図鑑を選び，文章を読んで「やく目」と		○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 [主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子</u> <u>ノート</u> ・粘り強く，文章の中の重要な語や文を考えて選び出し，学習課題に沿って，のりものカードを書こうとしている。
	8	「やく目」と				
	9	「つくり」「できること」を見付けて，のりものカードに書く。				
三	10	○ 実際の乗り物を確かめにいく。 (時間外)				
	11	○ 単元の学習をふり返る。				

8 本時の学習

(1) 本時の目標

「いろいろなふね」を読み「やく目（しごと）」と「つくり」から、それぞれの船の「できること」を考えて見付けることを通し、事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。

(2) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1 前時までのふりかえりをする。	◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て ・つながりの中で「できること」を見つけるため、それぞれの船の「やく目（しごと）」と「つくり」を確認する。	
2 めあてをもつ。	めあて いろいろなふねの「できること」を見つけよう。	
3 文章や写真を手がかりに、何が「できること」なのかを考える。	・「やく目（しごと）」と「つくり」との関係性から「できること」を考えるよう助言する。 例：～という「つくり」があるから、～ということが「できること」 ・何をキーワードに「できること」を選んだのか理由を話すようにする。 ◆「きゃくせん」と「フェリーボート」のできることで悩んでいる児童は、それぞれの「しごと」に着目させる。見付けた「しごと」に合う「できること」は何だろうということを考えさせる。	・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 [知識・技能] ワークシート
4 「できること」をのりものカードにまとめる。		
5 図鑑を読んで、のりものカードを書く。	・本時で学習したことを活用し、のりものカードを作成する。 ◆「つくり」があるからできることを問うことで「できること」との因果関係の理解を促す。	

(3) 板書計画

1 めあて

2 じぶん

3 みんな

しょうぼう
てい

ぎょせん

フェリー
ボート

きやくせん

火|じ|が|あ|る|と、
水|や|く|す|り|を|か|け
て、
火|を|け|す。

さ|か|な|を|あ|み|で|と|る。

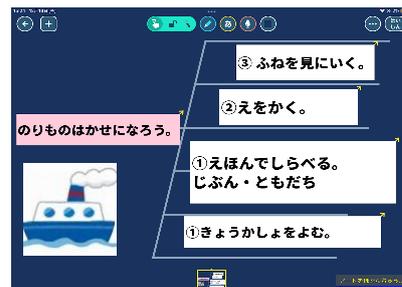
車|を|と|め|て、
き|やく|し|つ|で|休|め|る。

き|やく|し|つ|で|休|ん|だ|り、
し|よ|く|ど|う
で|し|よ|く|じ|を|と|つ|た|り|す|る。

4 のりものカード

9 指導上の工夫

- 指導上の工夫として、乗り物に関わる図書を整備した。
(13 ブックリスト参照)
- 単元計画表を教室に掲示したり、一人一台端末で見せたりし、毎時間、学習の進捗を児童と共有した。



10 手立ての具体

① 焦点化して読む

- 教材文の「名前」「しごと」「つくり」「できること」を一つずつ焦点化して読み取った後、その時間に本や図鑑を読む活動を取り入れた。
- つまづきのある児童には、「つくり」を探す際は写真を手がかりにし、写真と文を結び付けながら読むように個別に支援した。「できること」では、前時までの「つくり」との関係性から、その「つくり」があるからどのようなことが「できる」のか、確かめながら読むように個別に助言した。

② 児童が調べた内容を実際に確かめる活動、日常の読書へのつながり

- 実際に乗り物を見に行き、児童が図鑑などから見つけた「やくめ」「つくり」「できること」が正しいかどうかを確認した。教材文に出てくる漁船やフェリーボートを始め、パトカーやごみ収集車などを見ることができた。実際に確かめた際、新たに分からないことが出てきたときは、もう一度今まで調べた本や図鑑を読み直すなど、日々の読書活動へとつなげた。

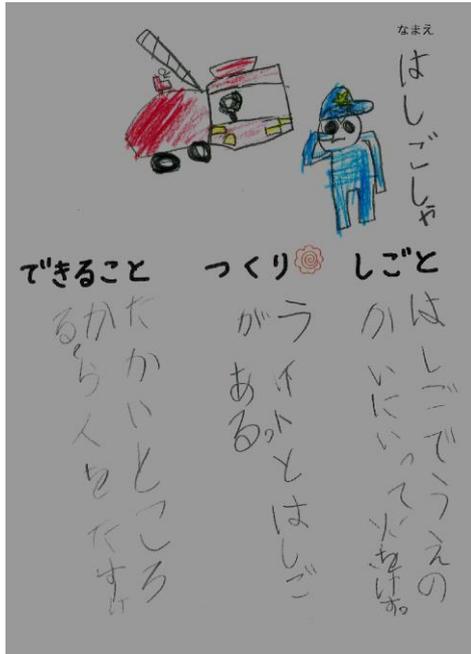


音戸の海から児童が確認した船の数々

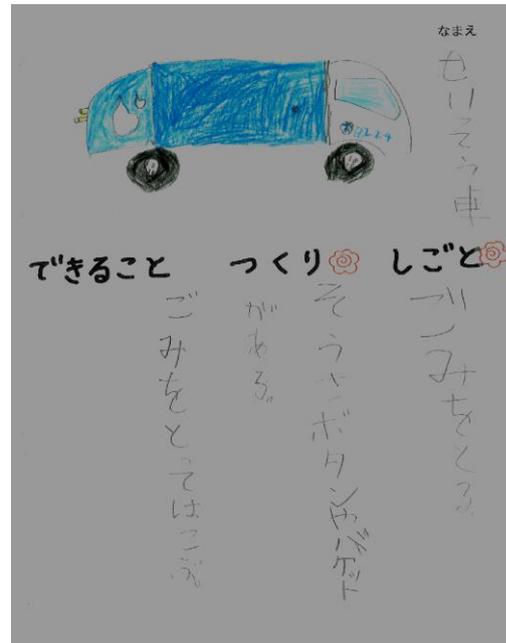
11 評価の実際

B 評価の児童ワークシート2枚

文章中の重要な語や文を考えて選び出している。



児童A



児童B

	児童A	児童B
しごと	はしごのうえのかいについて火をけす。	<u>ごみをとる。</u>
つくり	ライトとほしごがある。	<u>そうさボタンやバケット</u> がある。
できること	<u>たかいところから</u> 人をたすける。	<u>ごみをとっては</u> こぶ。

下線部の「しごと」「つくり」「できること」を、因果関係を理解した上で正しく選び出せていると判断した。

12 成果と課題

成果

- 「しごと」「つくり」「できること」の前に、「名前」を見付ける活動を入れたことで、児童の学習への抵抗感がなくなり、達成感をもちながら、目的を持って進んで学習に取り組むことができた。
- 図鑑を読み慣れていない児童も、抜き出すことができていた。
- 実際に乗り物を確かめに行ったことで、新たな調べたいことが見つかり、次の読書活動につなげることができた。

課題

- 「できること」を自力で選び出すことにつまずきが見られる児童が多かった。「しごと」と重複してしまったり、関係性を意識できなかつたりすることが要因だったと考ええる。教師の支援によって見つけ出すことができる児童が多かったので、自力で選び出すためには、教材文だけでなく、本や図鑑などを使って一斉指導を行う場面を設けるなどの手立てが必要であった。

- 「しごと」「つくり」「できること」の関係性を考えずに選び出そうとする児童がいた。そのことから、「しごと」「つくり」「できること」の因果関係を考える指導が不十分だった。文と文との間に接続詞を入れて読む活動を取り入れるなど、情報と情報の関係を理解させる手立てが大切である。

13 参考

①ワークシート

なまえ

できること	つくり	しごと

ロイロノートを使って作成し、画面で示しながら授業を進めた。

②ブックリスト（並行読書のために教室に常備した本）

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| ● くらべてみよう はたらくじどう車1～5 | 監修・写真 市瀬義雄 金の星社 |
| ● よみきかせ のりものしゃしんえほん バス | 作・五味零 写真・市瀬義雄 岩崎書店 |
| ● よみきかせ のりものしゃしんえほん こうじ車りょう | 同上 |
| ● よみきかせ のりものしゃしんえほん ふね | 同上 |
| ● よみきかせ のりものしゃしんえほん しょうぼう車 | 同上 |
| ● よみきかせ のりものしゃしんえほん せいそう車 | 同上 |